

# 末黒野

すぐろの



11月号 (通巻771号)

# 百日紅

小川玉泉

ひまはりの盛りや留守の駐在所  
池過ぐる夏蝶影をジグザグに  
汐風に二の腕湿り花火果つ  
夕茜褪せて窓打つ軒簾

頭に触れて零る下枝の百日紅  
酔ふほどに戦の話冷奴  
みんなの悲しきまでに鳴きつげり  
落日や一氣に囃す油蟬  
祖母愛でし携帯硯洗ひけり  
盆用意ハウスみかんを加へもし  
墨絵めく、庭前の松盆の月  
毬栗のはじけむばかり井水汲む

# 涼新た

松本三千夫

海霧深し媛の入水の湾の口  
灯台を晩夏の雲の去りがてに  
鶴頸の白磁の花瓶涼新た  
新涼や龍の水吐く手洗鉢  
新涼の森へこころを預け来し  
風を呑み風を吐き出す竹の春  
眠たげにせせらぎの音赤のまま  
犬も猫も寄らぬゑのころ風寄せて  
浮世絵の文読む女涼新た  
取り零す錠剤の艶処暑の朝  
星流る起伏とぼしき安房の山  
池の面を叩き風待つ銀やんま

# 甲矢集

配列は音順（当月巻頭作家は  
次号は末尾になり以下同じ）

## 向日葵

清海信子

蟬しぐれ人を帰して夕永き  
ぬばたまの闇にからまる凌霄花  
めまひして大地傾く極暑かな  
四五人で祭囃や能登ふかく  
向日葵や一村低き家ばかり  
西日浴び油光りや能登瓦  
朝市の婆ら指先まで日焼け  
朝市や手摺み売りのちびなすび  
黒揚羽溶岩に影投げ飛び去りぬ  
大青田見しより旅愁はじまりぬ

## 魂

## 迎

黒滝志麻子

消えさうで消えぬ街灯明けの蟬  
日当りて蟬の木となる大樹かな  
警策の音のひびきや蟬の穴  
滴りの崖に水神祠かな  
川底を鴉のせせる西日かな  
夜鷹鳴く声途切れたり星の闇  
青萩や茶室つくろふ京大工  
太梁の峡の湯宿や走馬灯  
湖に灯のゆらぎをり夜の秋  
家中の部屋を灯しぬ魂迎



# 乙矢集

配列は音順（当月巻頭作家は  
次号は末尾になり以下同じ）  
太字は推薦句

斑 猫 鈴木 一三

蟬しぐれ 謡曲復習ふ能舞台  
傘寿とは人ごとのやう心太  
マンホールの浜の紋章土用凧  
水遣りの先へ先へと道をしへ  
鬱の字の二十九画戻り梅雨  
年金に恃むくらしや法師蟬  
秋茄子に期待をこめて枝詰めり

初 蟬 西川 みほ

初蟬に無聊の小窓開けにけり  
絵葉書の鮎匂ふかに土用東風  
親しきは東北訛り夏暖簾  
筑波嶺の裾へと迫る青田かな  
撞木なき鐘に凌霄絡まれり  
羽衣の松より展く砂灼けて  
単線の灯の遠ざかる星月夜



# 万 仞 集

綿菓子 の雲 わくさま や祭 笛	鯛の 声の 膨らむ 雨上り	米櫃の 底を 晒せり 土用干	夜の 秋いつしか 明日となりて ぬし	田の 神の 祠小さし 稲の花	銀漢の 滴るばかり 北信濃	貝殻の 暖簾の 涼し海の 音	甚平や パスポート 捨て免許 捨て	炎昼の 太陽ゆらぐ 盥かな	来し 方の証 しの一つ 団扇束
饗庭 恵子	渡辺 崖花	辻井 ミナミ	戸田 澄子	小山 直子	長井 恵子	倉橋 千代子	原和 三	浅川 幸代	小田 嶋正敏

感動の余韻 百千花 果つ	只野美代子
ぽんぽんと店主の叩く西瓜 買ふ	小沼ゑみ子
泳ぐもの見えず 砂噴く山清水	加藤静江
予定無き日の朝蟬の声 涼し	山崎稔子
青鷺の素早き嘴や 魚光る	外山生子
振り返りふり返り見る 夕焼かな	大内由紀
灼くる道ここまで来ての 勘違ひ	高橋明
大夕焼団地まるごと 包みたる	熊切修
消さうとて消えぬ 憶ひや原爆忌	吉村勝也
畳屋の青年の汗 滝のごと	佐藤正子



# 青炎集

横浜 饗庭 恵子

一閃の花火のさらす海の色  
山道や据ゑたるさまに青蛙  
早立ちや蟬のつぶてに打たれたり  
綿菓子わたあめの雲うもわくさまや祭笛  
見はるかす青田果てなし昼の月  
亀載せて蓮の浮葉のゆらめけり

横浜 渡辺 崖花

谷風に蕊の震へる合歡の花  
遠雷の雲呼び集め来たりけり  
残照に映ゆる山荘合歡の花  
蛸たこの声の膨らむ雨上り  
鈴音の移る牧場や霧の海  
吹き上ぐる風や棚田の稲に花

# 小川玉泉選

横浜 辻井 ミナミ

借老や薬味各々冷奴  
風入れの袂にありぬ守り札  
米櫃こめくらの底を晒せり土用干  
岩被ふ苔柔らかや滴れり  
厨窓あかあかと染め大夕焼  
炎天や石の羅漢を焦しをり

横浜 戸田 澄子

語り部は吉永小百合原爆忌  
炎暑かな郵便局に客ひとり  
夜の秋いつしか明日となりてゐし  
桃を食ふ証の匂ひ懇ろに  
山よりの風心地よき踊りの夜  
紫木蓮枯れし炉煙舎白木槿



# 巨林抄

も の 言 は ぬ 兵 の 名 を 呼 ぶ 敗 戦 忌	ゆ つ く り と 団 扇 動 か す 聞 き 上 手	咲 き 満 ち て 散 る も 一 途 や 凌 霄 花	人 柱 鎮 も る 池 や 蜻 蛉 生 れ	木 漏 れ 日 の 涼 呼 ぶ 庭 や 苔 の 寺	湯 帷 子 付 け 毛 付 け 爪 付 け 睫 毛	独 唱 に 輪 唱 合 唱 蟬 の 庭	凌 霄 や 火 屑 の や う に 散 り 果 て て	無 数 て ふ 数 あ り に け り 目 高 生 る	夕 立 の 今 日 を 攫 つ て 行 き に け り	折 り 鶴 の 色 あ ざ や か や 長 崎 忌	玉 苗 の 青 き 香 の ま ま 投 げ 分 く る
川 越 栄 一	齊 藤 雅 子	藤 田 千 枝 子	澤 田 澄 子	室 井 稚 雪	上 月 智 子	古 川 敦 子	芝 田 幸 恵	中 村 月 代	根 本 公 子	園 田 恵 子	都 留 百 太 郎